

じぶん かんが も だ あ みと あ じゅぎょう めざ
～自分の考えを持ち、出し合い、認め合う授業を目指して～

I めざす子ども像

じ こ じつげん みずか すす いよくてき がくしゅう せいかつ こ
自己実現のために、自ら進んで意欲的に学習や生活をする子ども

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

< 学力に関して >

○教師が提示した課題に対して、一生懸命に考えたり、反復練習に黙々と取り組んだりすることができ、基礎的な計算力があり、学力調査の国語・算数の結果は、全体の正答率が三重県平均並みである。

△理科では、学習した内容を生活の中でいかすことができず、全体の正答率も低い。

△主語述語の読み取り、各学年で習得すべき漢字の定着が不十分である。

△字数制限や指定の言葉を使用して答えることが苦手で、自分の考えを表現する力が弱い。

< 学習・生活の状況に関して >

○学力調査の児童質問紙の結果をみると、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合や学校以外で学習に取り組んでいる児童の割合が高い。

○学校図書館や地域の図書館へ通う回数が多く、貸出冊数も多い。

△生活習慣が定着していない児童が一部あり、自己肯定感も低い。また、人が困っているときに、進んで助けると答える子の割合が低い。(生活質問調査から)

△学校生活を良くしようと主体的に動く意識が薄く、教科の学習の意欲も低い。

III 指導改善のための計画 (ポイント)

< 学力に関して >

・「全国学力量学習状況」調査や「みえスタディチェック」、「かめやまっ子チャレンジ」(市教委作成)、「学VIVAセット」(県教委作成)、「東書データベース」等の活用。

・「めあて」、「ふりかえり」をすべて授業の中で実施し、内容を充実させる。

・補充学習の充実(学習ボランティア、井田っ子スマイル学習教室等と連携し、補充学習を実施する。)

・言語活動の充実を核とした授業改善。

< 学習・生活の状況に関して >

・図書館活動の充実、家庭・地域と連携し読書習慣の定着を図る。

・家庭学習時間の確保のための呼びかけ、各学年に応じた家庭学習の手引きの配布および啓発。

・生活学習チェックシートに取り組み、土曜日、日曜日における学習を記録する。

・生活リズムの確立のための呼びかけ。

・主体性を育むための取組。(児童会、委員会活動等)

IV 具体的な取組

<確かな学力を身につける授業の改善>

- ・単元の導入では、単元のゴールを提示し、ゴールから逆算して、学習計画を子どもたちとともに立てる。教師は子どもたちに「つけたい力」を明確にもち、単元構想を練る。
- ・「聴く・語る」を中心に、語彙を増やし、読む力、書く力を定着させる。子どもが思考を深める場面を設定する。単元のめあてに応じて、ワークシートを工夫する。
- ・ペア、グループ学習等の学習形態や、子どもの意見をつないでいく教師の発問や切り返しを常に意識した授業づくり。一人ひとりの子が授業内で活躍する場面を設定する。

<指導力を高める研修の推進>

- ・0JTによる授業力向上のための研修を年間通して実施すると共に、互見授業を日常化する。
- ・全国学力・学習状況調査等から明らかとなった本校児童の強み・弱みの検証と改善に向けた課題の共有と取組。
- ・中核・中堅教員が若手教員をリードし、授業改善に向けた研修を進める。
- ・若手・中堅教員が、国・県・市の実施する研修会へ組織的に参加する。

<組織的に取り組む学校体制の確立>

- ・全教員による年3回以上の公開授業と定期的な授業研究。
- ・基本的な学習規律・ルールの徹底。
- ・自主学習ノートの活用と掲示や交流。
- ・よりよい人間関係をつくる人権学習と仲間づくりの推進。
- ・落ち着いて学べる学習環境づくり。
- ・学習部、人権部、生活部の三部会の連携強化により、日々の授業改善を継続的に進める。

<家庭・地域との連携の強化>

- ・全国学力・学習状況調査の結果や課題の共有。
- ・家庭学習推進のための協力の呼びかけ。
- ・ゲーム、ケータイの使用時間や使い方に関する課題の発信と家庭への協力呼びかけ。
- ・基本的な生活リズム確立の呼びかけ（学習・生活チェックシート）。
- ・放課後子ども教室「学習支援講座」等による地域学習支援・個別支援の充実。
- ・1年生の授業支援を中心とした学習ボランティア「井田川っ子ほめほめ隊」の結成と充実拡大。